教　師　ノ　―　ト

日付	2013年　9月15日
単元	使徒の働き・2
テーマ	伝道と神の助け
タイトル	牢をやぶるチカラ
テキスト	使徒 16:16-40
参照箇所	使徒 16:1-15

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
使徒 16:31

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
小上 3 巻 1 題 7 課、小下 2 巻 4 題 6 課、幼 1 巻 3 題 12 課、中 3 巻 1 題 7 課

メモ(情報・例話など)

前回のテキストから今回のテキストまでの間には重要な記事がいくつもあります。アンテオケ教会の設立、ヘロデ王によるヤコブ殺害、ペテロの逮捕、パウロの第一次伝道旅行、エルサレム会議などです。今回のテキストを効果的に語るために、メッセンジャーはこれらの箇所を必ず読みましょう。また、パウロの2度の伝道旅行の行程を地図で確認しましょう。パウロの献身、聖霊の働き、福音の広がる勢いに感動が得られるはずです。

❑導入

興味を起こす質問をしましょう。

例：もし何かの間違いで刑務所に入れられてしまったら、どうしますか？きっと、「悪いことはしていません」と牢から出られるように、必死で訴えるのではないでしょうか。または、「一生ここから出られなかったらどうしよう」と否定的なことばかり考えてしまうのではないでしょうか。今日は、イエスさまを伝えたために、牢に入れられてしまったパウロとシラスのお話をします。彼らは、牢の中で、どんな気持ちでいたのでしょうか？何をしたのでしょうか？

❑ポイント1　パウロとシラスは、ピリピで牢屋に入れられてしまいました（16－24節）

パウロの一行は、2度目の伝道旅行をしていました。聖霊に導かれて、彼らはマケドニヤ地方第一の都市ピリピに行き、そこにしばらく滞在して伝道をしました（6－12節）。パウロは新しい町に行くと、ユダヤ人の会堂に入って伝道するのが通常でした。しかし、ピリピには会堂がなかったので、川岸の「祈り場」へ、毎日通って伝道していました。ユダヤ人たちは、そこで礼拝していたのです。

✍占いの霊につかれた女奴隷が言いました。「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。」。これは正しいことではないのか？と質問する子どもがいるかもしれません。しかし、「いと高き神」とか「救いの道」という語は、異教でも使われていた表現です。彼女は、必ずしも本当の神に関することを証ししているのではありません。むしろ、悪霊のねらいは、そのように人々を混乱させることです。女は「悪霊から助けてください」と言っていませんが、あまりにも続けて伝道の妨げをするので、パウロが悪霊を追い出しました。イエスの御名の圧倒的な勝利でした。その女の主人たちは、彼女の占いで儲けることができなくなったので、怒ってパウロとシラスを役人に訴えました。きちんとした裁判が行なわれないまま、彼らはムチで何度も打たれ、牢に入れられました。

☆一緒に考えよう。ムチで何度も打たれ、体と心の状態はどうなっていただろう？また、不当な裁判で、牢に入れられたパウロとシラスの気持ちはどうだっただろう？

❑ポイント2　パウロとシラスが賛美をしていると、大地震が起こって牢の扉が開きました（25－26節）

当時の牢は、現代からは想像もできないくらい、汚く、暗く、恐ろしい場所だったでしょう。不当な仕打ちを受け、厳重な警備と足かせのため脱出の希望も奪われ、普通ならひどく落胆するはずです。しかしパウロとシラスは牢の中で、祈りつつ賛美の歌を歌っていました。他の囚人も聞き入っていたほどですから、ヤケクソではなく、真心からの美しい賛美だったと想像できます。

パウロとシラスの信仰に応えて、神は大地震を起して、牢の扉を開き、鎖を解いて、彼らを助けだしてくださいました。他の囚人たちがなぜ逃げなかったかは明記されていませんが、おそらく、起った出来事に対して、神を畏れる心が働いたのでしょう。

☆一緒に考えよう。苦しい時でも賛美するのがクリスチャンのあるべき姿だと言ってしまうのは簡単です。しかし、もし自分がこの状況下にいたら、彼らと同じような行動ができると思いますか？

☞子どもたちが現代の刑務所の牢を思い浮かべてしまうと、地震で扉が開いたり、鎖がはずれたりした内容にリアリティがなくなります。当時は岩を積んで作った獄舎であり、扉はおそらく木の開き戸で、棒を渡してロックするものでした。鎖は壁の岩や丸太につながれていたでしょう。

❑ポイント3　看守とその家族がイエスさまを信じて救われ、パウロたちは釈放されました（27－40節）

看守は、囚人を逃がしてしまった責任を感じて自殺しようとしましたが、パウロがそれをとめました。看守が、「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか。」と尋ねると、パウロとシラスは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と応えました。看守とその家族は救われました。翌日、パウロとシラスは釈放されました。パウロは、その時はじめて、自分たちが不当な扱いを受けたことを抗議しました。

☞看守が、「救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った理由は明確にはわかりません。おそらく、パウロたちが（捕らえられる前に）、福音をのべ伝え、占いの女奴隷から悪霊を追い出したことなどを知っていたのでしょう。また、何が起ったのか困惑している時に、パウロたちなら、何か答えを知っているのではないかと直感したのでしょう。

❑結論　神さまは、パウロとシラスが牢屋の中で賛美したとき、不思議な力で助けてくださり、福音を広げる働きを進めてくださいました。

占いの女のことからはじまって、予定とは違うトラブルが起っているように見えます。しかし、神はそれを益として、看守とその家族を救ってくださいました。苦しい状況にあっても、それを否定的にとらえるのでなく、神を信頼し賛美するとき、神はその栄光をあらわしてくださるのです。

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

例1）困難があっても、神さまを信頼し、賛美するとき、神さまは必ず助けてくださいます。みんなは牢屋に入ったことはないけど苦しいことはあるよね。今あなたにとって、ムチ打たれたように傷ついていることは何ですか？牢に入れられ抜け出すことができないような苦しい状況はどんなことですか？牢屋の中で、普通の人は、希望を見失ってしまい、否定的なことばかり考えます。しかし、どんなときも、（むしろ苦しい時こそ）まずイエスさまを見上げて祈り賛美できる人になろう！ 神さまの愛を信じよう！

例2）特に、私たちが熱心に福音を伝えようとするとき、神さまご自身が、その働きを不思議な力で押し進めてくださいます。あなたがお友だちを教会に誘うとき、どんな困難がありますか？伝道するのを、あきらめたくなるときもあるよね。それでも、神さまに祈り、賛美するのだけは、やめないでね。そうすれば、イエスさまがすばらしいことをしてくださいます。道を開いてくださることを信じ続けましょう。

例3）まだイエスさまを信じていないお友だちは、イエスさまを信じよう。そうすればあなたの家族も救われます。救われるためにどうしたらいいの？救われるってどういうこと？・・・など知りたいと思ったら、教会の先生に聞いてみよう。